

2022新競技規則の運用について

(中学生カテゴリーにおける国内での運用)



2022年3月26日
(公財) 日本ハンドボール協会
中学生専門委員会

国際ハンドボール連盟 (IHF) 競技規則審判委員会は、2022年3月1日に新競技規則を発表しました。IHFでは、この新競技規則を2022年7月1日より施行する方向です。大陸連盟 (AHF)、および国内大会においては主催者によりその運用を定めるとされております。主な変更は以下の4つです。

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
- 2 ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 3 スローオフエリアについて
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

決 定

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
2022年4月1日より施行
- 2 ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類
中学生カテゴリーの大会において2022年度を「テスト・イヤー」と位置づけ各種大会では新規格球を大会球として使用
- 3 スローオフエリアについて
第51回全国中学校大会終了後より施行
(第31回ジュニアオリンピックカップ…スローオフエリアは使用しない)
(第18回春の全国中学生選手権大会…スローオフエリアは使用する)
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更
第51回全国中学校大会終了後より施行
(第31回ジュニアオリンピックカップ…パッシブプレー予告後、パスは最大6回)
(第18回春の全国中学生選手権大会…パッシブプレー予告後、パスは最大4回)

参考資料

- ジャパンオープントーナメント
- 国民体育大会
 - ・ゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則を適用する
 - ・ボールサイズ (外周) について分類する
 - ・スローオフエリアは使用しない
 - ・パッシブプレー予告後、パスの最大回数を6回とする
- 日本選手権 (男子大会・女子大会)
 - ・ゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則を適用する
 - ・ボールサイズ (外周) について分類する
 - ・スローオフエリアを使用する
 - ・パッシブプレー予告後、パスの最大回数を4回とする

※ (公財) 日本ハンドボール協会HP

競技者関係者向け → 競技・審判本部より新競技規則について 掲載